第６期第２回あま市まちづくり委員会会議録要旨

と　き　令和４年１０月２７日（月）
　　午後３時００分～午後４時３０分
ところ　あま市市役所　本庁舎
　　２階　大ホール

１．出席者等

委　員	１５名
事務局	７名
傍聴人	０名

２．委員長あいさつ

・対面での大きなイベントである、第６回あまのわ（市民活動祭）が開催されて盛況だったと聞いている。
・まだコロナに気を付けなければいけないが、空気が戻ってきている部分もあると感じている。
・このような状況の中でも、コツコツとあま市のために活動している皆さんがたくさんいる。
・次のフェーズに進んでいく中で、委員会として話し合う内容も役立っていくと思っている。

３．議題

「第６期あま市まちづくり委員会の調査・審議内容について」

○事務局

・初めに、ルールブック作成の経緯について説明する。
・これまで地域組織や自発的な志を持った市民活動団体と市が協働して、まちづくりが行われてきた。
・平成 24 年にあま市みんなでまちづくりパートナーシップ条例を制定し、平成 26 年 10 月に市民や市民活動団体等の拠点として、市民活動センターを設置するなど市民協働の普及や啓発に努めてきた。
・平成 28 年３月にはあま市みんなでまちづくり市民活動協働ガイドブックを作成し、協働への理解や参加を推進してきた。
・本ルールブックは、協働による事業がより効果的かつ効率的に進むように、市民の皆さんが協働事業を実施する上で必要な手続き等について、具体的に示すものである。また、本ルールブックでいう市民とは、市内に居住し、通勤し、または通学するもの、及びまちづくりに関わるものを指す。
・市民活動センターが主催となり、協働のためのルールブックを活用した講座を実施した結果９名の参加があった。
・第６回あまのわ（市民活動祭）にて、協働事例紹介コーナーという掲示とともに、協働のためのルールブックを配布した。

○委員

・協働のためのルールブックを活用した講座に９人の参加があったとのことだが、参加者に対して何かアクションをしたのか。

〇事務局

・協働を実施するための具体的な相談はなかったため、参加者に対するアクションはしていないが、市民活動センターは市内の市民活動の情報が集約されており、そういった情報を活用してほしいと伝えた。

〇委員長

資料としてスケジュールの紙がある。

・各議題について、どこに重点を置いて議論するかで時間を変えていく。
・特に４番について、みなさんに聞きたい。
・継続性のある具体的な地域課題に特化した施策の企画立案について、投票数が多かった。
・どのようなイメージをしているのか、またどのくらい時間をかけるかをすり合わせて、同意を取りたい。
・こういう話がしたいとか、何かこういう成果を残したいという話を聞きたい。

〇委員

・要するに、みなさんが何をやりたいか、聞きたいということか。

〇委員長

・そうです、足並みを揃えたい。

〇委員

・市がこういうことやりたいから、そこに力を貸すために私たちを集めたわけではなくて、私たちがゼロから何か考えていくのか。

〇委員長

・まちづくり委員会の立ち位置自体が、あま市における協働を推進していくために、市に提言をしていくポジションである。
・今期に関してはテーマの中で、提言したいことを主体的に出していただきたい。

〇委員

・こういうことをやっていると、時間を無駄に過ごしてしまう。
・事務局で何か目標を出して、それに沿っていった方が早いと思う。

〇委員

・もう少し早い段階でまとめて、そこを集中的にやったほうがいいのではないか。

〇委員長

・今日の委員会で、そこを集中的に議論したいので、今回で決めたい。
・テーマ決めを２～３回やるつもりはない。

〇委員

・一番票が多かったのはルールブックについてなので、この話をしようと思う。
・どういったときに、このルールブックを使うのかを考えると、協働するときだと思う。

・協働のルールブックを作るときに、行政との協働のルールブックという話だったので、行政側が協働する気がなかったら、いくらこちらが協働したいと言っても、協働はゼロだと思う。
・ルールブックの活用を進める際には、可能性の段階でもいいので、行政側から市民活動団体に任せられる事業を各部署から出してほしい。
・本当に任せられる団体があるかどうかは、また別問題だと思う。
・情報提供がない限りは、あま市における協働の事例の数は増えていかないと思う。

○事務局
・前期の委員会で、実際にルールを形にしたので、既存の事業をどのように協働の形で進めるのか、既存のまま進めるのかという選択肢の一つができた。
・ホームページ等で周知をしており、各課に対してもそういった働きかけが必要ということであれば、これからの課題として検討したいと思う。
・過去には協働事例一覧を、委員会の資料として提供したこともあった。

○委員長
・先ほどの委員の質問にも関わると思うが、どういう意図で委員会に対して議題を振っているか説明してほしい。

○事務局
・前期の委員会から、今期のテーマについて提案を受けている。
・その提案を含めて、今期の委員会でどういった内容を審議していくか意見をいただき、挙手をしていただいたのが前回の委員会で、それをまとめたものが資料の１～５である。
・このテーマの中で、委員会で具体的にどのように何をどれだけやっていくのか、実際にどのような提案、又は提言になっていくのかというところまで、委員のみなさんで決めていただければと考えている。

○委員長
・基本的には５つのテーマ全部を扱うということなのかなと思う。
・それぞれのテーマをどのように、何を審議していくといいか意見をいただきたい。

○委員
・２番の学生等の若い世代の参加促進というのは、学生など若い人も入れて、まちづくり委員会のメンバーとしてやっていくということか。

○委員長
・その議題にするのであれば、まちづくり委員に学生を入れるのはどうかという議論をすることになる。

○委員
・学生は学校で勉強しているので、無理だと言いたかった。

○委員長
・学生などの若者が入ってくるなら、どういう可能性があるのかを検討することなどは、分かりやすく議論ができると思う。

・それ以外に何か、どんな議題で話せるかということを話したい。
・２番はわかりやすくて、学生をどうやって入れるかということに関して、みなさんから意見をもらうとか、そういう確認でもいいかなと思う。

〇委員
・我々から考えると、現在の若者はどういう考えを持っているか正直言ってよくわからない。
・２、３具体的に例を挙げてもらったら、話が進むのではないか。

〇委員
・例えばこのテーマが決まったときにスケジュールに合わせて、その話をするだけという形になるのか。

〇委員長
・どこまで結論を出したいかということも発言していただけるといいと思う。

〇委員
・例えば議論後に、若い世代の参加推進ということで、協働のためのルールブックを高校に持って行き、誰かが講義するみたいなところまで提案したとする。
・それが本当に進んでいくのであれば議論をしたくなる。
・ただ、話して終わるのであれば、何のための議論だったのかと思ってしまう。
・私たちの委員会でどこまで決められるのか知りたい。

〇委員長
・アイデアを出して終わりではなく、実現に向けて動けるのかについては事務局どうか。

〇事務局
・過去に市民活動センターの設置に関する提言をもとに、市民活動センターの設置がされた。
・ガイドブックの作成についても、基準がわからないという意見からガイドブックを作成した。
・その後、実際に協働を進めるためにルールがわからないのでルールブックが欲しいという意見から、前期の委員会でルールブックを作成した。
・提言を受けた内容をもとに、形にしてきた。
・委員会で協議していただいた内容について提言を受けて、本課においてできる限り形にして、実現できるように努めていきたいと考えている。

〇委員
・委員会で議論したことを市長に提言して、実際にやるのは市役所のほうか。
・実動は、私たちではないのか。

〇事務局
・市の事業、または市の事務の中に入ってくると考えている。
・提言の内容によるのではないか。
・例えば、まちづくり委員会のみなさんや市民活動センター、市民活動団体等と協力

することは、可能性としてはあると思う。

〇委員
・ここで行動が生まれてくるような形になったらいいと思う。

〇委員長
・今の発言のように、提言の中に入ることもある。
・その提言につなげていきたい議題でやるというのも一つある。
・例えば、委員の所属団体同士が一緒に何かする話になるかもしれない。

〇委員
・市との協働か。

〇委員長
・市との協働だが、市民同士の協働についてもあってもいいのではないか。
・そういった視点で、議論を進めていいと思う。
・若者というと広すぎるので、例えば中学生の協働を広げるための議論をするとか、高校生の参加を促すため議論をするとか、そのような重点の置き方をしたいという意見もありだと思う。

〇委員
・３番の市民活動センターのあり方について、市民活動センターのことがわからないとあり方もどう議論していくかという問題になると思う。
・自分も含めてみなさん頻繁に市民活動センターを利用しているので、私たちから見るといい施設だと思う。
・どこを変えたいとか、何か問題点があるなら、ここで協議して問題解決になったらいいと思う。

〇事務局
・市民活動センターは設立してから８年が経過した。
・最初は閑散としていたが、多くの市民や団体が登録している。
・先日開催した「第６回あまのわ（市民活動祭）」を企画、運営することができるようになった。
・若い世代の団体設立の支援や行政の各課からも相談があり、コーディネート役として参画するなど、内容は非常に多岐にわたっている。
・最近では学校、コミュニティ・スクール関係も相談を受けている。
・若い世代の相談も多くなっている。
・具体的な課題については、今後センターのあり方について議論するための資料も必要である。
・前々期の委員会の際に、市民活動センターの現状について報告したことがある。
・改めて議論のための材料を提供したいと思う。
・この場で即答はできないが、さまざまな課題がある。
・質問があれば、具体的なことに関して答える。
・地域性があるので、市の市民活動やまちづくりの場でセンターが本当にやらなければいけないことやニーズを汲み取っていかないといけないと実感している。

〇委員

・地域課題という話があったが、４番の継続性のある具体的な地域課題に特化した施策の企画立案について意見を出した方はイメージできているのかもしれないが、すごく難易度が高いと思う。
・例えば、具体的な地域課題を私たちが抽出して、それをどうやって施策の企画立案として、何をしたらいいかを考える。
・みなさんは、それぞれの団体や立場で参加されているので、５つバラバラだと難しいと思う。
・そこにいろいろ関わってくると思うので、ルールブックの使い方や市民活動センターのあり方、また学生など若い世代の参加について、その企画に対してどうやって巻き込んでいくか、まちづくり委員会で話をして、１個か２個か、実際の地域課題をこういう企画で解決しましょうという提案を私たちがやる。
・最終的に、その企画を市長に提言すれば、みなさんそれぞれの立場でいろんな意見が言えて、シビックプライドも醸成されていくのかなと思う。

〇委員長

・今の委員の意見は、４番を方法論にして、１、２、３、５を入れていく。
・実際に具体的な地域課題というのは、それぞれの地域によってさまざまである。
・みなさん、もっと市がこうなるとよくなるという思いがあると思う。
・地域や学校、コミュニティがこうなったらいいなと、みなさん思っていると思うので、それらを持ち寄って共有し、そこの中でテーマを決めるのはどうか。
・施策の企画立案とあるので、これだけで１年足らないかなと思うぐらいボリューム感のある話だと思う。
・その進め方であれば、１、２、３、５が関わってきて、全部について一通り話し合いはできるのかなと思う。

〇委員

・地域コーディネーターというものがあり、研修会をやっている。
・学校を中心とした地域づくりやさまざま問題について講演したことがある。
・何かを中心にして地域づくりを始めることが、いいことだと思う。

〇委員

・実際の手法は分からないが、委員それぞれの立場と経験値を持っているので、色々な側面からの意見で協議できると思う。
・これに取り組みましょうという一つの方向を決めて、それぞれのポジションから色々な意見を出す。
・まちづくり委員会としてこういう地域課題をテーマにして、こういうアプローチの仕方を考えたので、市として実践してもらえませんかと提言をする。

〇委員長

・みなさんの意見をいただきながらブラッシュアップして、今回どのような形にしていくかを決めたい。

〇委員

・５項目あって、これを一つずつまとめていくと、一冊の本になると思う。
・１番と４番に絞って集中的にやらないと進まない感じがする。

〇委員

・４番について、地域課題をどの規模で考えるのかということもある。
・地域をあま市全体として考えると、やれることがあるのではないか。
・新しいことをやるのはハードルが高くて難しいので、今やっていることで、もっと市民が関わって協働できるものは何かと考えると、例えばあまつりがある。
・あまつりに市民が参画し、部分的に市民や市民活動団体に任せていくような方法であれば協働につながる。
・実現できれば、２番の学生の参加やシビックプライドは創出されてくると思う。

〇委員

・委員の皆さんが、これについて企画立案していきたいという方向であれば、私もぜひやりたいと思う。

〇委員

・ばらばらに項目がある場合、最終的にどうやって市へ提言するのか分からなかった。

〇委員長

・例えば、議論する内容に応じて２，３チームに分けて集中的に議論を進める。
・主体的に関わりたい内容のチームに入り、議論するチームワークスタイルのようなやり方もある。

〇委員

・２番について事務局から意見がないので、何をどのようにしていいのか分からない。

〇事務局

・２番の「学生などの若い世代の参加促進」については、前期の委員からの提案である。
・若い世代とはどの世代が対象なのかも皆さんで決めていただきたい。

〇委員

・高齢者が恐れている認知症等の問題について、若い世代にも助けていただき、理解していただきたい。そういう機会があればいいと思う。
・具体的なことを一つずつ拾っていけば、いろいろなつながりができると思う。

〇委員長

・委員が言われたように、何かを提案していただき、それをどう実現していけるかという話ができるといい。

〇委員

・行政だけで色々なことをやっていけば、立ちいかなくなるので市民を巻き込んで社会を作る。
・市民の方々が、やりたいという気持ちはあってもどうやっていいか分からない。
・そのような人たちに、いろいろ資料や材料を提供してきたのが今までの経緯。
・気持ちはあっても活動できない方々に、参加しやすい提言をしていくのが、この場

だと思っている。

〇委員長

・参加しにくいと感じている方が、どうやったら参加できるようになるか。
・市民活動センター、ガイドブック、ルールブックと順番に作った。
・次は何が必要かを提案するということ。

〇委員

・委員になってからルールブックがあることを知った。
・こういうものがあるということを、どう知らせていくかが大事だと思う。
・中身は非常に素晴らしいと思う。
・団体がこれからこういうことやりたいとなったときに、助けになると思う。
・どうやって知らせていくかが、原点だと思う。

〇委員長

・皆さんが持っているリソースをどう活用できるか、アイデアを出していく場だと理解いただけるといいと思う。

〇委員

・協働のためのルールブックは、ホームページに掲載しているからといって、多くの人に見てもらえるとは思っていない。
・どう使うのかという考え方に発想を変えると、やれることは変わってくるのではないか。

〇委員長

・各テーマを順番にやっていき、それぞれについて提言を出していくのか、課題を１つに絞って具体的な企画立案をするのかについて多数決を取る。

－多数決－

〇委員長

・具体的な地域課題を絞っていって、それについて、時間をかけて提言を考えていくというスタイルでいきたいと思う。
・次回以降、ワークショップなどを活用し、テーマを絞りながらやっていきたい。

〇委員

・私は委員会に参加していて、実際にルールブックや市民活動センターを作ったりしているのも見ていて、すばらしいことだなと思った。
・市のほうにこういうまちにみんなでしていきたいと思ってもらうことが、協働の本当に第一歩であると実感している。
・ここでそういった何か一つ、市に対する提言をして、市が実際に動いてもらえるというのは、非常にありがたいというか貴重な委員会だと思う。
・得意不得意あると思うが、自分の得意な分野だけではなくて畑違いでも一市民として、忌憚のない意見交換ができる場になれば、その１個１個が協働でもある。

〇委員長
・テーマは一つに絞って、全員で話し合うイメージでいいか。

〇委員
・例えば、あまつりのように、みんなが一体となれる「こういうのがあるといいな」という市民感覚で軽いところから意見交換したい。
・市民の感覚で思っていることを持ち寄ってほしい。

〇委員
・みんなが盛り上がれるイベントなどに、どのような団体が関わって、どうやって企画していったらいいのかを委員会として提言して、観光協会や商工会なども巻き込むことができたら、面白いと思う。
・私たちがわくわくして考えることが、市にとっても大事だと思う。

〇委員
・今期の委員会では、ルールブックが議論の中心ではないということか。

〇委員
・ルールブックをどのように使ってもらったらいいかという発想にしても構わない。

〇委員
・単にルールブックの活用方法について検討しても、想像の域を出ない。例えば、イベントを行うときに、どうやったら協働になるのか。もっと盛り上がるのかを考えるときに、ルールブックの活用方法についても提案できるということも期待している。

〇委員
・私は子供がいるので公園や水場があったら夏は遊べるし、木やベンチがあればいいなと思うことがある。
・この委員会でそのような議題は大丈夫なのか。

〇委員長
・「わくわくする」や「こうなったらいいな」をみんなで持ち寄るのがいいと思う。
・課題と言うとネガティブなところからスタートになるが、あま市にはこうなっていってほしいという意見を皆さんで出し合ったときに、公園の可能性もゼロじゃないと思っている。
・公園を新しく作るだけではなくて、お金を使わなくても何か他のところからお金を集めてみるとか、こういうことができるのではないかと知恵を絞るのが協働だと思う。
・それぞれの専門性や経験を活かして、意見交換できるところだと思う。
・課題、地域課題と言わずに「こうなったらいいのにね」にしたい。

〇委員
・そうなると市民の誇りになると思うので、５番も入ってくる。

〇委員長

・ルールブックの話も絡んでくる。
・色々なアイデアの中で話したいというものを決めて、具体的に提言していく流れがいいのではないか。

〇委員
・イルミネーションのボランティアで、今回は中学校のボランティアが結構集まった。
・参加して地域の方と出会い、こういうような活動があるという話になり、それがシビックプライドにも繋がってくると思う。
・あまつりをきっかけに、子どもたちをボランティアに参加させられると思った。
・こんなボランティアに参加しましたという報告を他の子どもに伝えていくと、我々が難しそうにしゃべるよりも入っていくかなと思った。
・子どもたちに協働を体験してもらうことができるといいと思ったが、学校は過密スケジュールという現実がある。
・先ほど申し上げた形であれば、学生を取り込んでいけると思う
・そういうことに目覚めた子が、大きくなっていくとあま市のためにもなるだろうと思った。
・何か一つ、そのようなイベントやこれというものを出して、それから１、２、３、５番を吸い上げるような形がとれると面白いなと思う。

〇委員
・先日、ある地域の公民館の秋祭りに３、４年ぶりに行ったが、すごく賑わっていた。
・まちづくりの一番基本になるのは、地域づくりだと思っている。
・地域を大事にして、そこから色々なボランティアの方、或いは商工会や観光協会が繋がっていくということが大事だと思う。

〇委員長
・さまざまな年齢の方をイベントに巻き込むにはどうやっているのかみたいなモデルとして、例えば地域コミュニティ主催の祭りのノウハウについて聞く機会があってもいい。
・そういうところに学ぶことがある。

〇委員
・高齢者と子どもたちの料理イベントをやっていたが、とても和気あいあいとした雰囲気だった。
・サロンなども年齢制限をなくし、子どもの参加を認めてもいいと思う。
・そういう視点でも、一度議論していただきたいと思う。

〇委員
・地域づくりの中で人づくりというのがまちづくりにはあって、市民団体もそうだが市民だけできないこともある。
・市役所のみなさんに、やってもらわないといけないこともあると思う。
・継続性を持たせることを意識するのと同時に、市役所の人がやってくれやすいような提案にしていかないと、結局一回やって終わりになってしまうと思う。
・目安としてインプットしておいたほうがいいと思う。

〇委員長

・今日、方向性は見えたと思っている。
・みなさんからわくわくという言葉が出て、すごくよかったと思う。
・次回は何をテーマにしていくのかを皆さんで協議したい。
・地域課題というよりは、もっと何かポジティブに「こうしたい」という意見を頂きたい。
・あま市の中で「こうなったらいいな」とか「ここをもっとこうしていくといいよね」という意見を揃える。
・具体的に「こうなったらいいな」や「そのために何ができるか」を話し合いたいと思う。
・次回は「あま市をどうしたいか」や「あま市でこんなことやったらいい」について一人一人から聞きます。
・ポジティブシンキングで、次世代につないでいけるような委員会にしたいと思う。

〇事務局

・次回は 12 月 22 日木曜日、午後 3 時から。
・場所は美和総合福祉センターすみれの里を予定している。